

令和3年度 東浅草小学校授業改善推進プラン

○ 第3学年【国語科】

1 児童の状況及び実態

・単元テストより

		平均点
知識・技能		78
思考・判断・表現	話すこと・聞くこと	70
	書くこと	
	読むこと	91

【知識・技能】

新出漢字が身に付いていない。一方で、既習漢字に対しては、ミニテストを繰り返し行っているため、定着している児童が多い。適切な言葉を選べなかったり、言葉の意味を知らなかったり、語彙が少ない児童がいる。

【思考・判断・表現】

「話すこと・聞くこと」においては、順序立てて話すことが苦手である。思いついたことから発言してしまう。また、聞いたことが文字や文節でしか記憶にないことがあり、何について話しているのか内容が把握できていない児童がいる。「書くこと」においては、文章が長くなってしまい、主語がなかったりいくつもあったりしてしまう。また、見たことや出来事は書こうとするが、自分の考えを表現することがなかなかできない。「読むこと」においては、文学的文章の内容をつかみ、登場人物の気持ちを想像することができている。説明的文章では、書いてあることの大体を理解することができている。

【主体的に学習に取り組む態度】

多くの児童は学習活動に積極的に取り組んでいる。難しい発問にも粘り強く考えて答えようとする。しかし、あきらめてしまう児童もあり、二極化してきている。



2 指導についての課題

【知識及び技能】

- ・新出漢字の読み方や書き順、部首や熟語などを、定着させる指導。
- ・語彙を増やし、意味を正しく理解させる指導。

【思考力、判断力、表現力等】

- ・全児童が自分の考えをもてる課題設定。
- ・考えを出し合い、友達の考えと比べたり評価したりする場の設定。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・学んだことやできるようになったことなどに気付き、今後の学びに生かしていこうとする姿勢を育てる指導。



3 授業改善に向けての具体的な方策

【知識・技能】

- ・新出漢字を学習する際、既習の漢字と比べたり、多くの熟語や文章を作成したりして、その漢字のイメージを膨らませる。
- ・分からない言葉の意味調べの時間を確保し、重要な単語はノートに書かせて定着させる。

【思考・判断・表現】

- ・主発問を難易度を変えて伝えるようにする。全体指導で理解できない児童には、個別で易しい言い回しで聞く。
- ・交流の場の時間の確保。全体での交流の前に、隣の友達と発表し合う。

【主体的に学習に取り組む態度】

・粘り強く課題に取り組ませるため、成功経験を増やす。そのために、取り組みやすい課題に取り組ませ、「できる」感覚を身に付けさせる。

○ 第3学年【社会科】

1 児童の状況及び実態

・単元テストより

	学校のまわりのようす	台東区の工場の仕事	平均点
知識・技能	84	78	81
思考・判断・表現	68	72	70

【知識・技能】

- ・地図記号や地図の見方は概ね理解できている。
- ・台東区の土地の様子や、工場に関する知識は概ね定着している。

【思考・判断・表現】

- ・地図や資料から土地の特徴を詳しく読み取ることができない。
- ・働く人の思いや願いまで考えることができない。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・見学をしたり人の声を直接聞いたりする体験が不十分であるため、自分の身近なこととして捉えることができていない。



2 指導についての課題

【知識及び技能】

- ・身に付けなければいけない知識を身に付けさせる指導。
- ・資料を正しく読み取らせ、問題に正しく答える指導。

【思考力、判断力、表現力等】

- ・聞かれたことに文章で自分の考えを答えること。
- ・資料から読み取ったことから、言えることを考えること。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・学習課題に主体的に取り組むこと。



3 授業改善に向けての具体的な方策

【知識・技能】

- ・大切な語句を強調して提示し、何回か書かせることで確実に理解させる。
- ・扱う資料を増やし、正しく読み取る練習を通して、読み取り方を教える。

【思考・判断・表現】

- ・書くことに課題のある児童には、友達の考えを参考にさせ、書いて表現できる自信をもたせる。
- ・資料を読み取り、そこからどんなことが考えられるか、想像する時間を確保し、必要に応じて支援を行う。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・学習課題を主体的に捉えるため、身近な場面や状況を想起させる。毎時間の課題設定の際にも、疑問をもてるように、課題提示し、個別に声をかける。取り組みの後には、自分の学習を振り返らせる。

○ 第3学年【算数科】

1 児童の状況及び実態

・単元テストより

評価の観点	かけ算	時刻と時間	わり算	たし算・ひき算の筆算	長さ	あまりのあるわり算	暗算	平均点
知識・技能	96.7	87.6	98.1	93.6	91.9	96.4	90.8	93.5
思考・判断・表現	83.3	75.1	90.3	88.9	87.5	87.5		96.3

・東京ベーシック・ドリル診断テスト（第2学年の内容） ※数値は%

大問	大きな数	分数	たし算	ひき算	かけ算	文章題	かさ長さ単位	時間の単位	図形の名前	箱の形	グラフ	平均正答率
正答率	45.9	89.2	64.9	48.6	81.1	43.2	13.5	56.8	43.2	32.4	51.3	54.0

【知識・技能】単元テストの平均点が93.5であることから、どの単元も知識・技能は定着している。かけ算九九が定着していて、わり算、あまりのあるわり算の計算を正確にできる児童が95%以上いる。東京ベーシック・ドリル診断テストを問題内容別に見ると11：項目中6項目が正答率50%を下回っている。特に文章題、かさや長さの単位や図形、時刻と時間について定着が低い。

【思考・判断・表現】時刻や時間の正答率は75.1%であるが、数直線や時計の針などの具体物を使っていないため、正確に求められない解答が目立つ。立式をする場面では、数量の関係を図や式を用いて簡単に表すことが苦手な児童が多い。

【主体的に学習に取り組む態度】各単元の学習内容は定着しているが、日常生活に活用する、新しい学習で既習の内容を生かそうとする態度が身に付いていない児童も見られる。



2 指導についての課題

【知識及び技能】

- ・身の回りのものの形を図形として捉えられるように、具体物から図形を構成する視点をもたせ抽象化させる指導。
- ・時間の経過を捉えにくい児童に対して、時計に針を書き込む、数直線上の目盛りを活用するなどの指導

【思考力、判断力、表現力等】

- ・文章問題で、文章の読み取り方や図や数直線への表し方についての具体的に段階を追った指導。
- ・かさや長さ、時間などを予測してから実際に計測する活動など、量を実感的に捉える指導。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・日常生活の中にある事象を扱ったり、学習内容の関連性を振り返ったりする活動を取り入れた指導。



3 授業改善に向けての具体的な方策

【知識・技能】

- ・図形の構成要素を視覚的に理解できるようにするために、デジタル教科書を活用する。
- ・基本的な計算を正確にできない児童に対しては、計算練習を毎回3問ずつ行う。
- ・学力向上推進ティーチャーを活用し、個別指導の充実を図る。

【思考・判断・表現】

- ・問題文を理解するために、分かっていること、問われていること、計算方法を決める言葉などを毎回識別する。
- ・自分の考えの説明が分からない児童に対して、式が立てられない場合は、具体物を活用して考えるようにする。
- ・図や数直線のかき方の指導や確認は学力向上推進ティーチャーを活用して個別に行う。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・授業前の計算練習や学習のめあてを自分で見いだすことを通して、学習に向かう姿勢を整える。
- ・今後の学習に生かせるようにするため、単元の終わりにその単元で学んだ数学的な見方や考え方を振り返り次に生かす。

○ 第3学年【理科】

1 児童の状況及び実態

・単元テストより

	自然の かんさつ	植物の育ち方 〔1〕 たねまき	こん虫の 育ち方	植物の育ち方 〔2〕 葉・くき・根	平均点
知識・技能	98	89	84	77	87
思考・判断・表現	90	86	88	80	86

【知識・技能】

葉・茎・根など、覚えなければならない言葉とその意味、部位などが一致していない。

【思考・判断・表現】

得た知識を活用することができていない。自分が学習した生物と、それ以外の生物が同じように成長するという一般化する考え方ができていない。

【主体的に学習に取り組む態度】

理科の学習は、観察や実験も多く、意欲をもって取り組む児童が多い。しかし、「楽しかった」で終わってしまい、学習内容の定着と結び付いていない児童も見られる。



2 指導についての課題

【知識及び技能】

- ・語句の正しい知識の定着を図る指導。
- ・観察方法や育て方、手順などの技能が自己流になることに対する指導。

【思考力、判断力、表現力等】

- ・学習のまとめが、児童の十分な理解になっていない。そのため、一般化できず、その時だけの結果として認識してしまうことへの指導。
- ・学習した内容を、他の場合はどうなるか想像させる指導。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・興味がある活動から、学習活動に繋げる場の設定。



3 授業改善に向けての具体的な方策

【知識・技能】

- ・ICT 機器等を活用し、細かい部分も丁寧に見られるようにする。一方で、できるだけ実物を見て、一人一人が操作できるようにする。
- ・実験では、自分たちで考えた方法にならないよう、一人一人丁寧に見て、正しい方法を指導すること。

【思考・判断・表現】

- ・その対象だけでなく、様々な場面で起こりうることを経験させること。
- ・生活の中で、学習したことがどう生きているかを想像させること。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・実験や観察の活動の時間から、疑問をもたせるような声掛けをし、「なんでだろう。」という気持ちを引き出す。
- ・考察やまとめの時間にも、新たな気付きをもたせられるような学習展開を工夫する。